

1年 本時案 (第1次 5/7)

- (1) 主眼 具体的な操作活動を通して10の分解・合成について考えることができるようになる。
 (2) 準備 おはじき・ブロック・ドットカード・発表用ドットカード・ヒントカード
 (3) 学習過程

2年 本時案 (第2次 5/12)

- (1) 主眼 具体的な操作活動をすることを通して繰り下がりのある筆算の計算ができるようになる。
 (2) 準備 発表用ホワイトボード・ブロック・おはじき・ヒントカード
 (3) 学習過程

前時の学習	具体的な操作を通して、9までの数の構成について考えた。		前時の学習	51-29を問題文から立式し、自分なりの方法で答えを出した。	
関	教師の働きかけ	学習活動・内容	学習活動・内容	教師の働きかけ	関
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> クイズを実際に行ってみせることで、問題の理解を深めることができるようにする。 	<p>1. ゲーム内容を確認し、解決への見通しを持つ。</p>		<p>51-29を けいさんしよう。</p>	
かんがえる	<p>ボールが 10こになる くみあわせを かんがえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 青と白のボールを全部で10個入れ、どんな組み合わせがあるか考えよう 一通りだけでなく多くの組み合わせを考えるように促し、クイズの答えは何通り用意してもよいことを伝える。 どのような操作をしてよいか分からない児童には、前時までの活動を掲示したものやヒントカードを用意しておく。 具体物と10マスの用紙を準備し、操作活動で自分の意見をもつことができるようにする。 早く考え終わった児童には、自分の意見をまとめるための発表用ドットカードを準備しておく。 <p>評価ア (ノート・発表用カード・具体物)</p>	<p>2. 二種類のボールそれぞれ何個ずつで10になるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 半具体物を用いた方法 絵や図をかく方法 	<p>1. 51-29の計算の仕方を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 半具体物を用いた方法 絵や図をかく方法 	<p>L: 今日の課題は「51-29を計算しよう」です。発表の準備をしましょう。</p> <p>L: 自分の考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理解が深まるように、発表の確認では、具体物を準備し、実際に操作して確認する。 どの計算の方法が自分たちに分かりやすく簡単かを実際に計算してみることで確認できるようにする。 <p>評価 ア (発表)</p> <p>評価 イ (発表)</p>	つなぎあう
つなぎあう	<ul style="list-style-type: none"> ○どなんくみあわせがみつかったかな? 発表用ドットカードを使用したり、他の児童に実際に具体物を操作させたりすることで児童の実態に応じた発表を指示する。 10の数の構成がつかみにくい児童には、前の活動で発表した意見をまとめたカードを準備しておく。 <p>評価 イ (発表)</p>	<p>3. どんな組み合わせができたか、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10個になっているかの確認 組み合わせ方の確認 (青1-白9 青2-白8 など) <p>4. 練習問題をやる。</p> <ul style="list-style-type: none"> カードゲーム 	<p>2. 筆算での計算の仕方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 繰り下がりをしたときの一の位への(10)の記入 繰り下がりをしたときの十の位の書き直し <p>3. 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2位数-2位数 (繰り下がりあり) ☆2位数-1位数 ☆2位数 (何十) -2位数 ☆2位数-2位数 (答えが1位数) 	<p>○これを 筆算で計算してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポイントがつかめない児童のために、誤答を示し、計算のポイントを確認する。 <p>L: 練習問題をときましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習問題に次時の課題も織り交ぜ、これまでの学習を生かして取り組めるようにすると共に、子どもから次への課題が出てくるようにする。 <p>評価イ (プリント)</p>	かんがえる
次時の学習	10の合成や分解を通して、いろいろな観点から10について考える。		次時の学習	2位数-1位数・2位数 (何十) -2位数・2位数-2位数 (答えが1位数) になる筆算の仕方を身につける。	

評価
 ア (関) 数に関するクイズに意欲的に取り組み、何通りも答えを考えようとしている。
 イ (表) 10の数の合成・分解ができている。

評価
 ア (関) 自分が考えた計算の仕方を進んで発表しようとしている。
 イ (考) 十進数のしくみをもとにして、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えている。